

【決算ハイライト】

- ① 2016年度上期決算について
 - ・ 売上高は182.2億円(+6.0%)、経常利益は7.3億円(+48.3%)。 ※カッコ内は前年同期比
 - ・ 売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも過去最高を更新。
 - ・ 製鉄所システムリフレッシュにより鉄鋼向け売上高が増加。通期業績目標の達成に向けて順調に進捗。下期予定案件の一部前倒しを含む。
- ② 2016年度通期見通しについて
 - ・ 通期見通しは当初計画どおり変更なし。
- ③ 中期経営計画の進捗について
 - ・ 中期計画の重点課題である製鉄所システムリフレッシュの推進、ソリューション事業の拡大、基盤サービス事業の拡大、製造・金融顧客基盤の強化、プロダクト事業の強化を着実に推進中。

<課題の進捗状況>

- ・ 製鉄所システムリフレッシュ = 開発要員の確保と育成（若手人材の先行投入）
- ・ ソリューション事業の拡大 = 開発期間短縮のためのソリューション事前検討
- ・ 基盤サービス事業の拡大 = 情報セキュリティ強化、情報共有基盤、BCPなどのサービス化
- ・ 製造・金融顧客基盤の強化 = 大型プロジェクトの遂行と新規案件の獲得を指向
- ・ プロダクト事業の強化 = 食品品質情報管理のクラウドサービス、e文書法対応ソリューションなどの顧客層拡大

【質疑応答】

- Q1 上期収益の上振れは下期予定案件の一部の売上計上時期が上期に前倒しされたためとのことだったが、下期も同様に新しい案件を確保し、通期で増収増益となる可能性はあるのか。
- A1 現時点では、下期で当初計画を上回る売上増は見込めていないので、業績見通しは据え置きとした。
- Q2 製鉄所システムリフレッシュは数年にわたる大規模プロジェクトと理解しているが、年ごとの売上はどのように見込んでいるのか（年によって山谷が出るのか、それとも凡そ平準化されるのか）。
- A2 売上に山谷が出るのか、平準化されるかどうかは、まだJFEスチールで計画の検討をしている段階であり見極められない。おそらく平準化は難しいと思うが、当社の要員リソースにも限界があるので、その振幅には一定の上限もあると考えている。
- Q3 2016年度で中期目標をほぼ前倒しで達成できる見込みとのことだが、次の中期は策定時期を1年早める等の対応を採るのか。
- A3 JFEグループ各社揃って2018年度～2020年度の計画を作成する予定であるので、当社のみ策定時期を早めることは考えていない。

以上